

令和4年度外部評価委員会議事要約

- 開催日時：令和4年11月21日（月） 午後1時30分～午後4時
- 開催場所：胎内市役所 大会議室
- 出席委員：小川由美子 菊池英美 桐生和文 久世俊介 藤井義文 宮腰容子
吉村崇（敬称略）
- 担当課：【施策No.1 子育て支援】
佐藤こども支援課長、桐生こども支援係長
金子健康づくり課長、神田子育て応援係長、齋藤発達相談係参事
丹後学校教育課長、梅津学校教育係参事
【施策No.15 観光・交流】
南波商工観光課長、齋藤観光振興係長
榎本農林水産課長
- 事務局：本間総合政策課長、諸橋行革協働係長、飯沼主任

施策1 子育て支援

【質疑応答・評価意見】

委員： 企業における子育てに関する理解の促進について、企業主導型保育事業の展開が、今後、大切なポイントになると思うが、具体的な働きかけを行っているのか。

担当課： 具体的な働きかけは行っていない。現在、待機児童数は0であり、公立と私立の園で対応している状況。今後、企業と連携しながら進めないといけないと考えている。

委員： 昔は、3歳未満児を保育園に預ける場合、様々な条件があったと思うが、今はどのようにしているのか。

担当課： 3歳未満児に限らず、3～5歳児も同様の条件であり、保護者の就労状況や求職状況等により、保育できないと認められる場合に受け入れている。

委員： 子育てに関する相談施設や相談員等については、どのような状況か。

担当課： 全ての相談に対応できている。余裕があるわけではない。早急な対応が必要な場合は優先的に対応している。健康づくり課の子育て世代包括支援センターでは、子どもが生まれる前から切れ目のない支援を続けており、必要に応じて、相談員が対応している状況である。また、状況に応じて保育園・学校等と連携しながら、相談対応している状況である。

委員： 黒川保育園廃止とあるが、なぜ、黒川保育園の園児が減り、きすげこども園の園児が増えているのか。この状況について、どのように考えているか。

担当課： 元々、きすげこども園は乳児園で、その後、3～5歳児も受け入れることになっ

た経緯がある。黒川保育園も3歳未満児を受け入れていたが、きすげ乳児園ができることになり、黒川保育園は3歳未満児の受入れを辞めた。3歳未満児からそのまま上へ上がった方が環境的にも良いと考える人がいらっしゃるということだと思う。

委員： 保育士の資質管理については、どのように捉えているか。

担当課： 保育の質については、研修で磨くこと、本人が持っている力を今以上に押し上げていくような先輩の教え等が高めることにつながると考える。

委員： 黒川保育園ときすげこども園の園児数の違いについては、3歳未満児からそのまま上に上がるメリットのほかに、隠れている部分があると思うので、保護者から意見を収集するなどすれば、何か要因として見えてくるものがあるのではないかと思う。

また、ファミリーサポートセンターについて、使いたいけど使えていない人がどこかにいるのではないかと思う。自分の子どもを預けるに当たり、心配事や預けることでのメリット等、そういった部分が目に見えると良いと思う。保護者のニーズをアンケートで収集した上で、具体的な数値等の結果が評価シートにあると良いと思う。

委員： 子どもに携わる保育士の力量をどう高めていくか。そこを具体的に詰めていき、課題に対する取組を次年度検証する。そのようなPDCAを継続してほしい。

成果指標「子育て支援制度を認知している市民の割合」について、令和2～3年度は低下しているが、この数値を向上させるために具体的にどのような取組を行ったのか。具体的な取組を確実に実施することで数値・成果が上がっていき、最終的には10年後のまちの姿に結びつくと思う。

保育の人材確保について、雇用条件が魅力的なのかどうかを詰めていってほしい。

委員： ファミリーサポートセンターについて、行きたくても行けない等の方もいると思うので、例えば、オンラインで相談できる体制も必要ではないか。今はライフデザインが多様化しているため、対面以外の支援が必要な方もいるかもしれないので、保護者のニーズをアンケートで収集した上で別の指標等が評価シートに載っていても良いのではないかと思う。

子育て支援は、定住につながる部分だと思う。子育てに関する情報発信については、大きいところの発信よりも保護者同士の口コミから伝わっていく方が理想的だと思う。情報誌やSNSによる情報発信だけでなく、チラシ等を保育園のラック等に設置すれば、手に取ってもらえるかもしれない。配付率を評価シートに記載することで、情報発信している効果が見えてくるのではないかと思う。

委員： 相談体制について、子育てしている方々から相談があった際に、縦割り行政ではなく、スムーズに問題解決に取り組んでもらえる体制であってほしい。

委員： 「こころとことばの相談事業」について、過去5年間で悩みの質等が変わってきているのか。そういった情報を保育園と共有し、普段の保育の中で共有できるネットワークがあると良いと思う。

公立・私立の保育園の違いについて、胎内市の子育ての共通テーマを設け、公立・私立で共有できれば良いと思う。

今の教育に求められているものが変わってきていると思うので、保育園と小学校

の間で、子ども達の情報を共有できるネットワークがあると良いと思う。

委員： 昔は、3歳未満児を預けたいけど、預けられないという話を聞いたことがある。家庭環境を考慮して受け入れてほしい。

今、子どもの遊ぶ場所が少ないと思う。例えば、公園でも遊具が少なかったり使用禁止だったりしているので、休日、保育園のグラウンドを開放したり、小さい子ども達が遊びやすい環境を整備した方が良いと思う。外で遊んでいる子どもも少なくなっていると思うので、力を入れて取り組んでほしい。

施策15 観光・交流

【質疑応答・評価意見】

委員： 胎内市は、観光事業を推進するに当たり、どのようなプロモーションでやっているのか。

担当課： 市として、1つこれだと決めているものではなく、ワインや米粉という市の特産物などを活用して観光事業を推進している。

委員： 10年後のまちの姿に、記載されている「おもてなしの心を持った市民」とあるが、市民にどのようなことを求めているのか。

担当課： 観光に対して理解してもらい、来ていただいた方を笑顔で迎えてくれる。市民が観光に携わっていなくても、来ていただいた方が胎内市に良い印象を持ってもらえるような振る舞いをしていただけると良い。

そのためには、観光に関係する市民を広げること、観光に対する理解を深めてもらえる活動をもっとやっていかなければならない。

委員： 県外在住の親族が胎内市に遊びに来た際に、地元のお菓子や仕出しを出したら、すごく喜んでくれた。市民レベルでも、地元のを振る舞うというような意識を持つことで何か役に立てることがあるのかもしれない。そういったことを市から発信してもらえると良い。

道の駅胎内の売上が令和3年度増えた理由は、コロナ禍で帰省を自粛している学生に市の特産品をお届けする学生支援と、ネットショッピングが増えたからとのことだが、学生支援はコロナ対策の臨時的なものであるため、本来の目的からすると、ネットショッピングの売上がどのくらい増えたか知りたい。

担当課： 学生支援は100万円、ネットショッピングは50万円程度増えた。あと、突発的なもので、これもコロナ対策ではあるが、全国旅行支援のクーポン等の利用により増えた部分もある。

委員： 既存施設のオフシーズンの活用について、具体的に何に使われているのか。

担当課： スキー場でパラグライダーとジムカーナ。

委員： 道の駅胎内に野菜等を置いたらどうか。

担当課： スペース的に難しい。

委員： 場所は今の場所が良いのか。駐車場も狭い。

担当課： 一般的な需要を考えると、道の駅で市の特産品等が買えたりした方が良いと思うが、今の場所を変えることということは難しい。

委員： 既存施設のオフシーズンの活用について、市の主導で民間が活用しているのであれば、成果指標の令和8年度最終目標「既存施設のオフシーズン活用数5」というのは、達成のために行政としてどのようなアプローチをかけるのか。

担当課： グリーンシーズンでの活用を増やしていきたい。

委員： 民間も使用できるという情報を開示してはどうか。民間からすると、誰が主導権を握る場所なのか、すごくハードルが高いと感じる。成果指標の達成目標であるので、取り組んでほしい。

委員： 胎内市の様々なイベントは、県外から人を呼ぶ面よりも、市民が楽しめるようなイベントの色が強いと感じる。それが目的であれば良いと思うが、どのような目的で戦略を設定しているのか。県外から人を呼ぶため、どんな露出やツールを用いているのか。観光の目的には、胎内市にお金を落としてもらうことが大きな目的だと思うので、その辺りをどのように考えているのか。

担当課： 全体的には県内の方をメインターゲットとしているのが実情。イベントの内容や規模の大きさによって、例えば、チューリップフェスティバルや星まつり等においては県外の方をターゲットにしているものもある。

県外への情報発信については、道の駅や旅行会社等に、チラシやポスターの配置をお願いしている。

委員： 県内とは、市民以外のことか。

担当課： ターゲットは市民が多い。市外から来ていただきお金を落としてもらうことは、とても大事だし、そうしていきたい。一方で、市民の皆様にも市の魅力である様々なものを知ってもらったり、楽しんでもらいたいと考えている。

委員： スポーツの合宿で、胎内エリアを利用した際に、泊まる所がなかった。これだと利用する人も減ると思った。

道の駅は買うものがない。クーポン等の使い道がなく、米や酒を買ったんだろうと思う。その辺り、胎内市が経営に入っているのなら、もう少し考えた方が良いと思う。

委員： 道の駅に人を呼ぶ時に、どういう人を呼ぶのか、どういう人に宣伝するのか、その人が欲しいものは何かというところとの連動性がない感じがする。市民の楽しむ場として進めているとすれば、市民が欲しい野菜だったりを置いた方が良いと思う。市外から来る人も家族連れが多いので、酒の詰め合わせより、市内のお菓子等が良いと思う。

委員： 道の駅は、子ども達のターゲットは良いが、お母さん方が買い物をしたい時に、正直、買うものがない。子どもが遊んだ後、ついでに何か買って家で料理したりなど、そういったものが手に入ると良いと思う。

県外だと移動だけで1～2時間かかるが、胎内市は、魅力的なものがあちこちにあるので、そこをメリットとして、「ここから10分であそこに行けるよ」等をもっと売り出していけると良いと思う。

委員： 胎内市はいろいろな良いものがあるので、パッケージツアーを企画し、そこに来

るお客さんによって置くものを変えるとか、それでイメージが変わるのではないかと思う。

担当課： パッケージツアーに関しては、胎内リゾートが今年から少しずつやり始めている。

委員： 胎内市の立ち位置は、どのようなものか。

担当課： 胎内リゾートが指定管理者の形で行っているが、市も大きく関係するところである。

道の駅に置くものについては、観光協会の考えで行っている。元々、施設を建てた際に、補助金の関係で限定的なものしか置くことができなかったが、数年前に、観光協会に対し、売れるものを売っても良いと伝えているが、あまり変わっていない状況。今後、魅力的なものを置けるように観光協会に話をしていきたい。

委員： 成果指標「道の駅胎内の売上」について、コロナ禍による様々なクーポン等の外的要因で売上が増えるという指標ではなく、経済効果的なものが試算できれば、評価をする点では良いと思う。

担当課： 経済効果については、正確なものを出そうとすると多額の費用が発生するが、費用をかけないまでも、簡単な手法で効果が算出できるものもあるようなので、検討していきたい。

委員： 新潟食料農業大学をはじめ、地元の様々な機関、地域の施設と連携して、独自のもので良いと思うので、是非やってみてほしい。「これは胎内市モデル」として、経済的に正確かどうかは問わず、「胎内市はこれを指標としてやっている」みたいな感じが良いと思う。

委員： 観光は、唯一の総合産業とも言われ、観光だけが全てのジャンルと関わりが持てる唯一の産業で、スポーツ大会の応援で訪れるのはスポーツ観光、修学旅行で訪れるのは教育観光。今、胎内市で行おうと思っている観光は、恐らく、旅行パッケージを作ろうとか、観光客、GoToトラベルで人を呼びましよう等の、いわゆる「ザ・王道観光」なので、なかなか関わる人が増えない。

スポーツに関わる人がスポーツも観光だと思えば、その人達の意見が観光に取り入れられるし、教育の方が修学旅行で胎内市の生徒との関わりを持てば、それも教育観光になる。そういうものが市民の理解に関わる部分だと思う。

成果指標について、道の駅の売上ではなく、どのジャンルの人たちがどのぐらい関わってくれたかというのも指標の1つにしても良いかもしれない。先程の話にもあった経済効果等は難しいと思うので、せめて、どういうジャンルの人達が関わってくれて、そのジャンルでこれぐらいの人を呼んだとか。さらに、可能であれば、その人達がどれくらい宿泊したか。そんなところから考え方を変えていくのも必要なのかと思う。行政サイドから市民にどう伝えられるかというところを指標に落とし込んでいくことが必要なのかと思う。

委員： 城の山古墳、板額御前、乙宝寺等の胎内市の古くからの歴史について、今の子ども達はあまり知らないので、観光でもそういったところに力を入れてやってほしい。やり方によっては、すごく観光に良い町だと思う。

委員： 各委員から良いアイデアが出たので、今年から、追加項目のような形で評価シートに追加して、良いアイデアが活きるように取り組んだら良いと思う。

- 委員： 歴史等の観光については、歴史等に関わる担当課と連携して取り組んでほしい。観光とっていなかったものも、もしかしたら観光になるかもしれない。先程の合宿の話も宿泊をしたい方の受け口としてネットワークを作っておけば、受け入れることができるのではないかと思うので、検討してほしい。縦割り行政でない形で、より良い関係でできるよう期待している。
- 委員： 胎内市は、コロナ対策として、市内の宿泊施設を利用した際の宿泊代金を一部キャッシュバックするキャンペーンを本当に早く対応していたのはすごく良かった。ただ、10年後のまちの姿があまりにも壮大で、そこに向かっていくためのステップが、結構すっ飛んだ数字になってしまっている。その辺りを民間の方々も含めて、もう一回見直してもらえたら良いと思う。
- 委員： 指定管理者、第三セクターの関係の中で、市の担当課の思いが本当にそこに活かされているのか、それが今後の課題だと思う。
- 一番大切な部分は、観光に訪れてくれた人達に対して、どういうおもてなしの心や態度で接待しているか。リピーターを増やすには、一度来てみた時に、どのような印象を与えられたかということに関係すると思うので、指定管理者等に職員の考えや思いを伝えていくことが必要だと思う。
- いろいろなことに取り組んでいるが、名所・食べ物等、いろいろ広く浅くという印象を受ける。それはそれで一つの形で良いが、胎内市として、何を核として訴えていくのか。
- 国道7号沿いに道の駅があれば、そこで農産物を売ったり。いろいろな観光の拠点となって、そこから町の中に入っていくのが、イベントもやりやすいし理想的。胎内市の入口に、観光名所などの案内板があると良いと思う。
- 委員： 最近、出かける際の情報収集は、SNSを見て、行く場所を決めることが多い。ホームページは、行く場所をもっと調べたい時に、見るくらいの状況。
- 市のSNSを見てみたが、更新回数が少なかったりすると、力を入れていないように見てしまう。「ここは何課のSNS」のような縦割りなところがあるが、胎内市に行きたい時に、必要な情報が載っていれば良いので、胎内市の公式アカウントの中で、様々な情報が集約して発信できていれば、もっと魅力的な胎内市をアピールすることができると思う。
- 委員： 市内小学生のアイデアスイーツなども、もう少し地域の方々にも味わってもらえたら良いと思う。